

指名競争入札参加資格審査申請受付について

平成23・24年度における、本市の発注する業務の競争入札に参加しようとする者の資格審査の申請を次のとおり受付けます。

申請書配布期間：平成23年1月7日(金)～各業務の受付期間終了まで

※申請書配布および提出 午前9時～11時30分
午後1時～4時30分(土・日・祝日を除く)

配布場所：各課担当窓口、または市ホームページ(<http://www.city.urasoe.lg.jp>)よりダウンロード

※郵送による申請書請求の場合は、返信用封筒(A4規格)および所定の切手を同封してください。

● 学務課・水道部総務課・総務部総務課	140円切手	
● 契約検査課 工事またはコンサルタント業務等各1件	140円切手	
工事・コンサルタント業務等 2件	200円切手	を同封してください。

※同封の要綱・規則等を熟読した上で申請してください。

※申請書は必ず持参し、受付期間内に提出してください。郵送による受付は行いません。

都市建設部 契約検査課
☎876-1234(内線4512)

=受付業務=

- 1.建設工事
- 2.測量・建設コンサルタント業務

=受付期間=

平成23年2月1日(火)から
同年2月28日(月)まで

※新規登録で有効期間は2年です。

水道部 総務課
☎877-4869

=受付業務=

- 1.水道施設工事
- 2.漏水調査コンサルタント業務
- 3.量水器購入

=受付期間=

平成23年2月1日(火)から
同年2月28日(月)まで

※新規登録で有効期間は2年です。

教育委員会 学務課
☎876-1234(内線6513)

=受付業務=

- 1.教育委員会の発注する物品の購入

=受付期間=

平成23年2月1日(火)から
同年2月25日(金)まで

※追加登録で有効期間は1年です。

総務部 総務課
☎876-1234(内線2014)

=受付業務=

- 1.庁舎等委託業務(清掃・警備・電話交換手)
- 2.庁舎等保守管理業務
(消防用設備・庁舎設備・電話設備・昇降機)
- 3.事務用消耗品等購入業務(市内業者に限る)

=受付期間=

- 1～2.平成23年1月14日(金)から
同年1月28日(金)まで
- 3.平成23年2月1日(火)から
同年2月11日(金)まで

※追加登録で有効期間は1年です。

は蜚の海を掻き分けて進む。この海を越えれば、もうお別れだ。最後の時を惜しんでわざと歩調を緩めるが、汽車は待つてはくれない。蒸気を吹かして僕を急かす。

「ほら、行って」

チルが背中を押す。僕はその勢いで、後ろを振り向かず汽車まで走った。入り口に足を掛けたそのとき、「待って」とチルが叫ぶ。後ろを振り返ると、チルが懸命に声を振り絞っている。

「ゆいまーるぬくる」この言葉だけは、絶対に忘れんてよー」

その言葉を聞いて、何か不思議な温もりと懐かしさが込み上げてくるのを感じる。僕は深く頷いた。

「うん、絶対に忘れないよ」

腹の底からそう言って汽車に飛び乗った。汽笛を鳴らして滑車が動き出す。窓の外のチルがどんどん小さくなり、とうとう見えなくなった。チルが残した「ゆいまーるぬくる」という言葉をなぞる。そういえば、はあちゃんの口癖だったな。その時、僕ははつとした。あの急かすような口調、丸い大きな目、人懐っこい笑顔、花を愛らしそうに眺める姿……

「はあちゃんだー」

僕が出会ったあの不思議な少女は、はあちゃんの昔の姿だったのだ。戦前の人は名前を二つ持っていたと聞いたことがあるから、チルとはもう一つの名に違いない。僕の心は驚きと興奮で一瞬間を浮いたような気がした。今まではあちゃんの口癖の意味を深く考えようとしたことなどまるでなかった。はあちゃんの昔話は大好きでよく聞いていたけれど、どこか遠い国の御伽話としか思えなかった。でも今、僕は少女時代のはあちゃんとともに、昔の浦添の姿をこの

目で確かに見てきた。どんなに生活が貧しくとも、決して笑顔を忘れない村人たち。家族や親戚、近所の人たちが助け合い、小さな力を大きな生きる力に変えるその逞しき、温かさが鮮明に甦る。「ゆいまーるぬくる」。それは僕たち現代人が忘れかけている、大切なものなのかもしれない。気がつく。これまで足草に刻んでいた滑車のリズムが次第に遅くなる。そして、とうとう停車する。来た時のように、扉が鈍い音を立てて開く。僕は列車の中の様子を見渡し、しっかりと脳裏に焼き付け、何の恐れもなく列車を出た。そこには、静かな夜のパイプラインが横たわっていた。ふと後ろを振り返ると、もうそこにあの黒く輝く軽便鉄道の姿はなかった。今まで見たこと全てが儚い夢であったかのように感じられ、一瞬不安の渦と暗闇に襲われる。しかし、あの時のように再びレールが光りを放った。僕はすかさず手を触れる。まだ熱い。確かに今さっきまで、この上を汽車が走っていたことを確信させる温度だった。レールから手を放し、ケータイで時間を確認する。九時半を回ったところだった。僕はにっこり笑ってケータイを閉じ、鞆の奥にしまっ。そしてしっかりと地面を踏みしめながら、帰路を歩み出した。

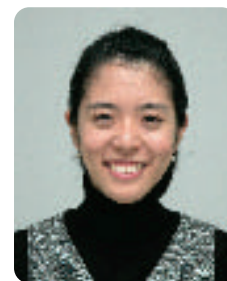
「明日、はあちゃんに会いにいこう」

「えんどうの花」(一九二四年、作詞・金城栄治、作曲・宮良長包)より引用

※この作品は、浦添で生まれ育った九二歳の祖母が語る、戦前の浦添を基に描いた物語です。

詩部門 煌賞 『二冊の本』ハラゲニ ナツキ

あなたが読んだ本が読みたい
あなたが見たもの
たとえば朝焼け
木漏れ日
桜並木
あなたが聴いたもの
たとえば風の音
口笛
心臓の音
そして
海のおい
怒り
感動した映画
おいしいと思った料理
自転車で走ったときに感じた風



短編小説部門
煌賞
上間 美香さん

子どもからお年寄りまでが楽しめるような物語であることを心掛けました。「ゆいまーるぬくる」という言葉をとおして、現在希薄になりつつある親族や近所など、共同体との繋がりの重要性を伝えたいと思い、作品を書き上げました。



詩部門
煌賞
原国 奈津紀さん

受賞の電話を頂いたとき、YA文芸賞を受賞したとはつきり実感したのは少し時間が経ってからでした。詩を読むのが好きで、時々自分で詩を作っています。市立図書館に掲示されていたYA文芸賞のポスターを見て応募しました。何かあれば、また応募しようと思っています。

リンスとシャンパー
可愛い女の子の話
もって聞いていたかったなあ
葉の匂い
花々の色と香り
白い壁
あなたが聴いた孤独
愛する人
世界の終わり
すべてが一冊の本になって
わたしの手に入ればいいのに
そうしたら
一文字たりとも余すことなく
わたしの手に書き込んで
ずっと側に置いておきたい